

創成科学研究棟

教職員写真同好会 伊藤仁浩



発行所
北海道大学生協同組合
札幌市北区北8条西7丁目
教職員委員会編集
電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 三面 **台湾通信 第5回**
- 四画 **「Peace Now! Okinawa No.18」に参加して**
- 七画 **文化財(予備軍)へ行こう 第4回**

北大台湾同窓会委員 菅 大志
北大高橋潤林百年祭実行
北海道大学客員准教授 角 哲

このたびの北海道胆振東部地震により被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。避難生活や生活の再建等、現在も大変な状況で過ごされている方もいらつしやると存じます。一日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

9月6日3時、地震が発生しました。携帯電話の緊急速報の大きな音、引き続き生じた大きな揺れに誰もが恐怖を感じました。その後、大規模停電により生活が一変しました。避難をするため玄関を出てもマンションのオートロック式の入口が開かなかつたり、高層マンションでは水を貯めようとしても水がでなかつたり、割れたガラスを片付けようとして掃除機を手にして「あつ、動かないんだ」と気がついたり…。また、テレビやラジオがつかず、携帯のバッテリーも少なくなる中、地震に関する情報がタイムリーに入手できず不安が強まりました。

今回の地震をとおり、私たちは今一度考えなければならぬことがあります。それは、防災行動です。日頃より防災行動をしっかり行うことが、いざというときの備えや対策になります。今回は4つの防災行動についてお伝えします。まず、1点目は「自分の身は自分で守る」です。自分の身の

安全を守るには、避難指示を待たず、自ら状況を判断し行動をとる必要があります。情報を入手し、吟味し、判断して、行動する力が求められます。大学では毎年避難訓練を行っています。皆さん、真剣に取り組まれていますか？訓練と

防災について考えよう

北海道大学大学院
保健科学研究院
創成看護学分野 准教授
平野 美千代



Opinion!

は思わず、「本当に災害が起きてくる」という思いで、自ら判断し行動する避難訓練が重要です。あなたが率先して避難行動をとること、周りの人も「これはただ事ではない。逃げなくては！」と焦り、一緒に避難行動をとります。あなたの率先した避難行動がまわりの人たちも助けます。この率先した避難行動は、訓練なしにはできません。避難訓練を人ごととは

思わずに真剣に取り組むことが大事です。また、日頃より、水や食糧などの備蓄を整えておくことも自分の身を守ることにつながります。

2点目は「家の中の被害を最小限にとどめるため家具にはストッパーをつけ、避難を確実なものにするために、懐中電灯等、避難用の防災グッズを準備する」です。

3点目は「地震等の災害が起きたときの身を守る術を覚えておく」です。家や学校にいたるときに災害が発生したら、あなたはどこに逃げますか？どのように身を守りますか？普段から考えておく必要があります。最後、4点目は、「家族や親しい人と安否情報の確認方法を決めておく」です。家族と互いにどのように安否を確認するか決めていきますでしょうか。今回の地震では電気が供給されない中、固定電話が使えず、携帯電話もバッテリーがなくなるなど連絡がとりにくい状況になりました。離れて避難している家族の安否情報をいち早くキヤッチできる方法を考え、日頃から家族と話し合い共有しておくことが大切です。自分の身を守る、大切な人たちの身を守る、そして、仲間や地域の人たちの身を守ることができるよう防災に取り組んでいけると良いですね。

留学生委員会の取組み

各国から北大にやってきた新入留学生を温かく迎える楽しくて
お得な「Welcome Party」大好評! 今秋10月5日開催

留学生には春と秋、2回新学期があります。新入留学生歓迎・支援イベントも年2回開催しています。去る10月5日(金)には中央食堂2階で秋学期「新入留学生ウエルカムパーティー」を開催し、20カ国96名の参加に在校生実行委員スタッフを加えた総勢25カ国107名がインターナショナルで楽しい時間を過ごしました。

■こだわり①
スタッフが話す言葉は多国籍対応

司会者の説明や紹介は英語と中国語、イベント中にはインドネシアやバンングラデシユなど各国出身のスタッフがそれぞれの言語でフォローしました。お国の言葉や聞いて表情がパッと明るくなる新入生もいて優しく声をかける先輩たちの多国籍言語対応は大好評です。



先輩がやさしく多国籍言語でお迎え

■こだわり②
飲食の全てをハラルで用意

乾杯を待たずに飲食をする参加者対策にウエルカムドリンクとして北海道の牛乳を使ったイチゴミルクを受付で渡したのがよかったのか、乾杯まで飲料や料理・お菓子・フルーツ盛合わせを食べた人はいませんでした。みなさんが心配なく同じものを食べられるように今回も全てヒンズー教の決まりも加味した北大生協オリジナルハラルで用意しました。その中に少したけ日本の食文化に触れても

思いたいのから、先輩留学生の要望を生かして青のりと紫蘇味ののおむすびと緑茶を提供し簡単な説明書きを添えました。「おいし



ウエルカムドリンク片手に談笑

いす。ありがとう」と声をかけられて嬉しかったですが「もつとありませんか」「食べ物さ」と片付けをしていた厨房のカウンターに何人も女性のが来たました。



初めて食べるおにぎり日本のハーフ紫蘇は好評

■こだわり③
中古自転車も無料でもらえるご案内

参加者の一番人気の「無料でもらえる中古自転車」は、入学時の一人一回だけのチャンスです。春は譲渡会間際に札幌市から譲渡台数や開催時間を減らすご連絡があり、対応が大変だったため、先にいただけ台数を確認してから限定85人に通しNo.を入れた資料を渡して何度も多国籍言語で説明。「中古自転車無料譲渡会の事前説明会」の日程と場所をお知らせしました。



自転車ももらう説明には譲渡資格の資料を手に真剣

■こだわり④
オリジナル国名ビンゴゲーム

展示したビンゴの景品を目指してビンゴのマスを埋めるために、次々と声をかけて自己紹介をしま

がら相手の出身国を聞くとという友達作りが広がるオリジナルのビンゴゲームです。「ビンゴ!」が出ると歓声が上がります、まだの参加者たちは景品の近くに寄って覗き込むなど大盛り上がりだったのは意外品同様のCDプレーヤーが最初に選ばれずバッグやタオルセットが人気でした。



ビンゴのマス埋め自己紹介

■こだわり⑤
日用雑貨品を自由に選んで持ち帰る

参加者全員で記念撮影をし、パーティーは終了。事前に用意した日用雑貨品や小物、ハンガーなどを運び無料で持ち帰っていただきました。



日用雑貨品を選ぶのも真剣

参加チケットは販売開始当日に新入留学生(300円)だけで予定数を完了しました。中には「自転車いらないからパーティーに参加したい」との申し出にはチケットナンバを控えてパーティー当日混雑が起きないように説明しながら販売しました。初めて共済センター1カ所でも中販売、店内に設置したauとTuoの申し込み特設ブースへの来場者数アップを図りました。共済カウんターには連日生協加入申請の行列表が後Tuo申込みや共済加入にも繋がりました。留学生委員会が、計画立案からパーティー終了後の片付けまで1ヶ月間大奮闘でした。

いじわるじいさん
長崎原爆資料館を再訪。原爆投下と被害の実相、日中戦争の歴史から核兵器の現状等、今を考えさせられる展示だった。11時2分を指し歪んだ柱時計、指の骨と共に溶け固まったガラス。熱線で溶けた遺物展示の次は、同じ熱線を浴びた人々や救援者による絵やビデオの証言コーナーだ。課外学習なのか、遺品の前でメモをとる子や原爆絵巻のタツチパネルの前を動かぬ子等、小学生が静かに熱心に見ていた。外国人は英語字幕のビデオ証言を注視している。隣接する原爆死没者追悼平和祈念館に足を伸ばした。死没者名簿を納めた追悼空間は高い天窓で空と繋がっていた。そこに雨が降り注いでいる。ここの交流ラウンジで思いがけない事があった。若い女性が看護婦と女学生の手記2編を朗読してくれたのだ。私一人に! 被爆者の平均年齢は82歳。減り続く語り部に代わって、手記を朗読しているという。質問にも丁寧に答えてくれた。北海道被爆者協会会長だった故越智晴子さんを思い出していた。語り部の後継者がいたと伝えたら、どんなに喜ぶか。小学生達が賑やかにラウンジにやって来た。朗読が始まり、私は館を出た。雨が上がっていた。(今日子)

品台湾通信

「北大珈琲」と「北大紅茶」

北大台湾同窓会会員・北大台湾演習林百年祭発起人 菅 大志



新渡戸稲造と台湾珈琲

新渡戸博士は1905年2月、殖産局恒春熱帯植物殖育場を訪れました(写真)。この時のエピソードは同場の創設者で初代主任の田代安定による恒春熱帯植物殖育場事業報告第5輯にて「前殖産局長新渡戸博士来場ノ事」に述べられていますが、この文献はこれまで新渡戸稲造研究者には知られていないようで、新渡戸博士が台湾珈琲と深い関係があることがわかりました。

この文献によると、新渡戸博士は同場を巡覧し終えた後、当時試植中の珈琲木に就いては「特に奨励の辞」を与えています。『Bushido: The Soul of Japan (武士道)』を出版した翌年(1901)、台湾総督の児玉源太郎と長官の後藤新平が基本政策「農業は台湾」のために、三顧の礼で迎えた新渡戸稲造農学博士の言葉には、絶大な影響力があったことでしょう。

新渡戸博士は札幌農学校では学生・教師時代ともに外国人教師と珈琲を飲んでいたはずですし、また欧米留学時代、売店で珈琲を飲んだ記録もあり、欧米の珈琲文化に直に触れていることから、珈琲産業が有望であることは肌で感じていたに違いありません。そのため珈琲栽培に「特に奨励の辞」を与えたのでしょう。

前回述べたように、この恒春熱帯植物殖育場は台湾珈琲の歴史の要所ですが、珈琲栽培についても述べている「熱帯植物殖育場創設之議」を採択したのが当時殖産局長であった新渡戸博士でした。つまり新渡戸博士の採択があったからこそ、この恒春熱帯植物殖育場が創設され珈琲栽培が始まり、そこを訪れた新渡戸博士が珈琲栽培に「特に奨励の辞」を与えたからこそ、同場での珈琲栽培が成功し台湾各地で珈琲栽培が広まったと言えます。こう考えれば新渡戸博士は台湾珈琲の歴史に必要不可欠な人物であり、キーパーソンであったと言っても過言ではありません。

北大の先輩達と田代安定

前回述べたように、領台当初、橋口文蔵(札幌農学校第四代校長)が台湾での珈琲栽培を打ち出し、横山壯次郎(8期生)が橋口の命を受け珈琲木を探しそれを育て、その苗が同場の田代に渡っています。実はこの三人は薩摩出身でつながりが強く、その様子は田代による「駐台三十年自叙誌」や「恒春熱帯植物殖育場事業報告」でうかがえます。珈琲栽培に取り組みながらも早世する橋口、横山の遺志をつぐ意味でも、田代曰く「頗る熱心を注いで」珈琲を栽培していたのでしょう。そしてその任務を同場二代主任となる柳本通義(1期生)につないでいくのです。

つまり、台湾珈琲の黎明期は、橋口(1895)→横山(1897)→新渡戸(1901)→田代(1902)→柳本(1905)のように、北大の先輩達が田代を介してつないでおり、誰か一人が欠けても台湾珈琲の歴史が大きく変わっていたでしょう。このように北大の先輩達がリレーでつないできた台湾珈琲のバトンが、その後の北大台湾演習林で始まる北大珈琲に渡っていくのです。

ニトベカズラと新渡戸稲造

新渡戸博士にその名が由来すると言われてきたニトベカズラという植物があります。ところがこの植物和名が真に新渡戸博士に由来するかどうかは百年以上謎に包まれたままでした。私は、前述の「前殖産局長新渡戸博士来場ノ事」の中で、田代安定がこの植物を新渡戸博士に献名しているエピソードを発見しました。そこで今回はこのニトベカズラの命名秘話について詳しくご紹介したいと思います。



台湾統治状況視察の新渡戸稲造、高岡熊雄ら一行(台湾恒春の榕樹前にて)・北海道大学文学部文庫所蔵 右より柳本通義(1期生)、新渡戸稲造(2期生)、野村文次(恒春熱帯植物殖育場会計主任)、東條秀介(15期生)、高岡熊雄(13期生)、田代安定(恒春熱帯植物殖育場主任)

「Peace Now! Okinawa2018」に参加して

大学生協連合会は、1981年から大学生協の平和活動の根幹として、それに参加した学生が戦争被害を体験することなどから戦争の戦禍を知り、平和を考えるきっかけとして「Peace Now!」を開催しています。今年も北大生協から学生を派遣しました。

	開始時間	<内容>
1 9月30日	13:30	開会式
	14:10	平和祈念資料館見学・アイスブレイクなど
	16:40	ホテルへ移動
	17:40	今日の学んだことを班で感想交流
	18:40	夕食
	19:40	明日の視察に向けての学習会
	20:30	夜の会（事務連絡など）
	21:00	ディスカッション（テーマは募集したもの）・テーマ別学習会（テーマは平和学）
	22:00	お風呂など就寝準備
	24:00	就寝
2 9月4日	7:15	朝食
	8:00	朝の会（事務連絡・今日の意気込みなど）
	8:15	語り部さんによる白梅学徒隊の戦争体験講話
	10:20	フィールドワーク（ひめゆり資料館・アプチラガマ・平和の礎）
	18:10	感想交流
	19:10	夕食
	20:10	明日に向けての学習会
	21:00	夜の会（事務連絡など）
	21:30	ディスカッション（テーマは募集したもの）・テーマ別学習会（テーマは遺骨収集・戦後の生活）
	22:30	お風呂など就寝準備
24:00	就寝	
3 9月5日	6:45	朝食
	7:45	出発準備
	8:30	フィールドワーク（辺野古・嘉手納・北谷・普天間・沖縄国際大学・嘉数高台）
	18:05	プチ学習会
	18:20	グループでの感想交流
	19:30	夕食
	20:30	ディスカッション（テーマは事務局が提示）
	21:15	夜の会（事務連絡など）
	21:30	ディスカッション（テーマは募集したもの）・テーマ別学習会（テーマは自衛隊）
	22:30	自由時間
24:00	就寝	
4 9月6日	6:45	朝食
	7:15	準備
	8:30	朝の会
	8:40	1～3日の振り返り
	10:05	3地域合同企画（ヒバクシャ国際署名）
	11:30	朝食
	12:20	これからしたいことを考える
	13:20	私の平和宣言
	13:45	閉会式
	14:00	終了

私はこのセミナーに先立ち6月23日沖縄戦終戦の日（慰霊の日）に沖縄を訪れました。この時、沖縄戦最後の地である摩文仁の丘現糸満市で開催された式典に参加し、加えて平和祈念資料館やひめゆりの塔を巡って沖縄戦の基礎を学んだつもりでした。しかし、今回のセミナーで、6月に見られなかった場所や逃避した場所を見て、新たに痛感させられました。例えば、ひめゆりの塔には「鎮魂の間」というエリアがあります。ここは6月の訪問時、あまりの不気味さに1分足らずで通り過ぎてしまったエリアです。しかし、今回は10分以上留まって現実を直視しました。このエリアではひめゆり学徒隊全員の顔写真と名前が壁一面に貼ってあり、部屋に至る所で戦争経験者の証言を読むようになっていま

北海道大学法学部3年 西岡尚樹
9月上旬、沖縄で開催された「Peace Now! Okinawa」に参加してきました。このセミナーの特徴はディスカッションをする時間が多く、長いという点にあります。全国の大学生協から約100名が集まり、学びの中で、交流の中で考えを深めていきました。学びの中で最も強く実感したことは勉強不足である点です。

こういった実感はひめゆりの塔だけでなく、普天間・辺野古などのフィールドワークでも感じられたことでした。その実感を重ねて、今回のセミナーで学んだことは無関心を止めるべきだということです。平和に関して自分たちができることはほとんどありません。こういった体験をした私もここに書いて伝えることで一杯ですし、何か能動的なアクションが必要だとも思いません。我々が最低限いから「知る」ことです。今の沖縄で起きている辺野古への基地移設問題などは私たち北海道に暮らす人間が口出しできることはありませんが、無関心をやめることはできません。無関心は馬鹿野郎だ、そう言い切ってもいいでしょう。では、どう無関心をやめればいいのか。

残される者の義務
その証言の中にはある人物が死んだ、いなくなった、人を殺した。そういった記述がいくつもありました。この人物の中にはひめゆり学徒隊も少なくなく、壁に貼ってある顔写真と名前と証言を照合すると実際に何が起こったか、映像よりも生々しい像として脳裏に嫌でも焼き付いてきます。私はこの想起を経験して、戦争があったことを実感しました。

平和を損なう暴力がある状況の黙認、もしくはその状況自体に無関心であることをノルウェーの平和学者、Galtungは「文化的暴力」と呼び、平和を妨げる要因であると主張しました。無関心なことに関心を持ちなさいということは、確かにそれこそ横暴だと感じます。しかし、私がこの4日間で見つけた戦跡や資料館、聞いた講話は未来の平和への願いのため、多くの人の信念の賜物です。それが以上、戦争をはじめとするとする人災、さらに、近年では熊本地震や胆振東部地震などの天災の被災地の声に注意深く関心を寄せることは義務であると感じました。

北海道大学公共政策大学院修士2年 岡田雅文
平和のために自分は何ができるだろうか、それが私のテーマでした。ただ、そのために自分の人生を捧げる（例えば外務省に入省し、世界平和のために働く）ほどの覚悟はありません。もちろんその立場であれば、平和のためにより直接的に行動できます。しかし、では自分は関係ないと決めつけるのが正しいのでしょうか。



平和祈念資料館内から見える崖。ここで自決する住民は後を絶たなかった。



平和の礎の最奥にある灯。慰霊の日にだけ灯がともる。



嘉数高台から見える普天間飛行場。オスブレイが確認できた。



最後にこれからしたいことを考え、宣言した。

「大学生協連北海道ブロックの全道理事長・教職員懇談会」に参加して

北大生協教職員委員会委員長 笠原 敏史

大学生協北海道ブロックの全道理事長・教職員懇談会が10月13日(土)、北大生協会館で14大学の理事長・専務理事、連合スタッフおよび北海道ブロックスタッフの総勢33名が集まり、開催されました。今回の主なテーマは「学生の学業・就学支援」でした。

勉学援助制度の現状と将来構想

全国大学生協連の毎田伸一専務理事より「大学生協の就学支援の一つとしての『勉学援助制度』の現状と、その将来構想」という題目で大学生協連の学生支援の取り組みについて報告して頂きました。日本学生支援機構による奨学金制度はよく知られているところですが、大学生協連の「勉学援助制度」があることを多くの組合員の皆様はご存じないかと思えます。この制度は1991年に創設され、本年1月までに延べ約4千名に約6億円の援助金を贈り、経済的に困っている学生組合員の学業継続を応援してきました。現在、日本は好景気と言われていますが、多くの人は実感を持っていないのではないのでしょうか。様々な理由がありますが、学生は昔に比べて節約の意識が高く持ち、食事や生活必需品などにかけるお金を少なくしているような印象を受けます。生計維持者が亡くなられ、経済的に不安を抱えている学生さんがありましたら、この制度を知って頂ければと思います。

大学生のためのセーフティネット

北海道教育大学函館校の田中邦明先生より全国教職員セミナー(富山県)のご報告がありました。震災直後に北海道の大学生協で唯一人ご出席され、

深く感謝申し上げます。今回は「大学生のためのセーフティネット」で、学生生活支援を考える」というテーマで、ブラックバイト問題や他大学の学生支援事例についてご報告頂きました。学生自身がブラックバイトに気付いていないことやその背景に企業や社会的な問題があるとのことでした。学生支援事例は、「学業」、「経済」、「健康」の3分野に整理され、参考になる事例が多くあり、今後の北海道の大学生協の活動に役立つ内容でした。

世代間ホームシェア

酪農学園大学の吉田磨先生より高齢者と学生との「世代間ホームシェア」について、ホームシェアの長所と短所、そして、将来性と今後の課題を報告されました。少子高齢化社会に対する大学生協の活動の可能性を感じました。

道内の大学と大学生協の現状

最後に、道内の大学と大学生協の現状について意見交換が行われました。近年、大学内への企業参入、大学の経営統合など大学をめぐる環境は著しく変わり、組合員の皆さまの学業や仕事に大きな影響を与えているとのことでした。

これからも、身近にいる大学生協が大学と良い関係を築き、学業と研究の手助けになる良きパートナーとして期待したいと思います。



フォトコンテスト2018応募作品展

6月に行いました北大生協機関紙「きぼうの虹」企画のフォトコンテスト。応募いただいた中から53作品を展示する「応募作品展」を今年も開催しました。

11月5日(月)から11月30日(金)の約1ヶ月間、北大生協会館店の階段壁に応募写真を展示しました。例年より展示の期間は長く、より多くの方にご鑑賞いただきました。

また、10月22日(月)から11月26日(月)の期間、北大正門横のエルムの森ショップで入賞作品6作品を展示しました。こちらでは観光客や一般市民の方々にも見ていただけました。北大ホームページ英文版にこちらの入賞作品6作品が掲載されています。

応募作品の中から計6点が掲載されている「北海道大学2019CALENDER」をエルムの森ショップと生協購買店(会館・北部・工学部・中央)で1冊650円で販売しています。

今回の写真展に関し、快く展示にご協力いただいた北大インフォメーションセンターの方々、フォトコンテストに応募していただいた皆さん、ご来場いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



生協会館店展示の様子



エルムの森ショップ展示の様子



[2019北海道大学卓上カレンダー]

心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

渡邊 誠



大学教員という職業柄、成績をはじめとする評価というに関わる機会が多いように思います。けっこう悩む仕事です。ある時、自分のゼミの学生に、知らず知らずのうちに授業の成績を高めにつけていることに気づきました。これはいけない、不公平だ、そう考へて、名前を見ないで成績をつけるようにしたら、そういうことは無くなったようです。これは、私たちが何かを評価しようとするとき、評価対象となる要因以外の要因が影響を与えてしまうという現象の例だと思えます。ハロー効果とか光背効果とか呼ばれます。私たちに入ってくる情報、インプットのうち必要なものを選んで用いているつもりで、関係のないインプットが影響してしまう、ということですね。字がきれいだと試験の答案の評価が高くなりやすいとか、笑顔が美しいと面接の評価が良くなりやすいとか。そういうことは日常生活の中にも沢山あつて、ありふれたことかもしれません。そもそもヒトが物事を認識する際のしくみは、そのようになっていくということでしょう。

たとえば、北海道大学の学生であるということ、周囲からの人間としての評価が高くなつたりしますよね、北海道にいると。でも、客観的に見ると、北大生であることが保証するのは、受験勉強がある程度できた、ということだけのほずです。では、北海道大学の教員であることは、何を保証するのでしょうか。学研究に關して一定程度の能力を持ち、ある基準以上の学術研究業績を有する、ということでしょう。端的に言うなら、それ以上でも以下でもないはず。

自分自身をどのように評価するか、これは難しい問題です。ありのままに自分を見つめられるのが良い、と思つてゐる人は多い気がしますが、でも、これはやってみると、あまり嬉しくない気がするのでどうでしょう。自分の姿をビデオで見るのは、たいいての人が嫌がりますよね。私も、自分の心理面



接を相手の方の了解をもらつてビデオに録り、それを見ながら熟練した心理療法家から指導を受ける、という訓練を受けたことがあります。もちろん、ものすごく勉強にはなつたのですが、自分自身についてチェックリストを使つて評価して、同じチェックリストによつて、家族や親友といった近い人から評価してもらい、その結果を比較するという研究があります。自己評価と、他者からの客観的と思われ評価をくらべるわけですね。するとたいいての人は、自己評価が自分に都合の良い方にズレているのだと言います。でも、中には自己評価と人からの評価が一致する人がいるので。私はこの話を聞いて、それは自分のことを良くわかつている、いわゆる人間のできた人だろうと思つたのですが、大はずれ。なんと、鬱っぽい人だそうなんです。自分のことを自分に都合よく誤解することが、私たちのこころの健康の条件である、ということのようなんです。

自己評価は、起源的に言つて他者、とくに親などの重要な他者からの評価の反映です。愛された子どもは、自分が愛に値する存在だという自己評価をはぐくみます。健康な自己評価が都合の良い方にズレているというのは、親バカの方、盲目的な愛の、反映といふことになるのでしょうか。

ハロー効果で一番問題なのは、自分自身に對するものかもしれない。勉強が、仕事ができるから、人としてもエライと思つてしまつたり。等身大の自分をきちんと見つめるということとは、ほろ苦く、痛みをともなうことであり、ときに断念を求められることのように思います。成長という対価が、それを埋め合わせてくれるとしても。

ほけんのお話

今回は、様々なリスクにさらされている日常生活と損害保険の関係を考えてみましょう。

警察庁交通局によると、2017年の自動車事故の発生件数は472165件、死傷者は584541人とあり、消防庁によると火災発生は39373件、死傷者7508人、2016年の火災の損害額は22億円(糸魚川火災除く)にもなっています。自動車事故や火災のほか、頻繁に発生している地震や水害の被害も相当なものであり、自転車事故も、1000万円を超える賠償も珍しくありません。

さて、このようなりスクに対応するために4つの方法があります。

- ① 「リスクの回避」：なかなかむずかしいが、自動車を運転しない、家を保有しないなど、リスクのあることとはしない、持たない。
- ② 「リスクの縮小・減少」：自動ブレーキなどの安全装置つきの自動車への買替え、家の定期的なメンテナンス、機器の修理などの対策を行う。
- ③ 「リスクの保有」：リスクの存在を知らない。何らかの理由で対応できていない。対処手段がない。あえて自身で負担する。
- ④ 「リスクの移転」：保険や第三者にリスクを移転する

自動車保険、火災保険などの損害保険は、日常生活の中にある様々なリスクに備えるものです。みなさんのご家庭は、どのようにリスクに対応されているのでしょうか。リスクを洗い出して、その対応状況が4つの対処方法のどれに該当しているのか点検してみましよう。損害保険は、対応方法④として、同じリスクを多数の人々で支え合うことを目的とする保険加入者のための自助的の制度なのです。



文化財予備軍 へ行こう

第4回

～北海道大学の顔 農学部本館～

北海道大学客員准教授・非常勤講師

角 哲 (かく さとる)



農学部本館正面



装飾的な中央階段

あなたは「北海道大学をイメージする建物は？」と質問されて、何と答えますか？多くの方は、予備校がポスターで使う時計塔のある茶色い建物と答えるのではないのでしょうか。今回は、本学のイメージのひとつとなっている農学部本館をみていきます。

植物園の門衛所（1911）や博物館事務所（1901）など、本学に多くの作品を残しています。

初期の校舎は大半が木造であったので、昭和初期には老朽化が目立っていました。そんな中、理学部発足のために鉄筋コンクリート造3階建の本館（現総合博物館1929）完成を機に農学部本館改修の機運が高まります。理学部本館と同じ萩原淳正の設計で計画は進み、



車寄せと時計のある中央部の塔

1933年工事に着手し、中央部が1935年4月に、南翼の一部が1936年8月に完成しました（萩原は途中で退職し岡田鴻記が引継ぐ）。

当初の計画と本館の意匠

新たな農学部本館は鉄筋コンクリート造5階建で、中央には塔が聳えています。中央にはたような柱で縁取られる時計部分を除けば立方体の簡素な意匠です。しかし、当初計画ではゴシック風の装飾的なものでした。計画が変更されたのは、厳しさを増す時局を反映してのことでしょう。事実、2期工事で降の戦前の工事は中止されました。また、当初は「北」の字になる施設配置でしたが、1951年から60年に進んだ工事の過程で規模が拡大し、南北の庭は「口」の字型になりました。

壁は複数の色のスクラッチタイル仕上げですが、玄関車寄せのアーチを石で縁取り、建物の軒などは土を焼いたテラコッタで装飾しています。また、規則的に窓を配した合理的な立面構成ですが、南北両翼は部材を切り替えて1階窓下を繋ぐことで、基壇と壁に見立てる様な意匠上の工夫をしています。

一方、中央部の中に入るとやや華やかな印象を受けます。玄関の重厚な木製扉を抜けると白いアーチ型の梁と装飾的な茶色の石の柱、中央階段の赤い階段やマーブルの石を用いた手すりなどが目に入ります。梁をアーチ型にしているのは、柱との接合部を強化する目的もあり、構造と意匠を融合させた結果です。また、大講堂のある4階と5階の中講堂を結ぶ曲線階段は装飾のない機能的なものです。コンクリートという材料の特性を活かし3次曲面を実現しています。外観は簡素ですが立派な建物であったことに違いはなく、竣工年の陸軍特別大演習の際には大本営になり、3階は天皇の御在所になりました。ちなみに、中央階段には佐藤昌介や南鷹次郎など本学や北海道の発展に尽力された諸先生の胸像が置かれています。

キャンパスの更新と農学部本館

1期工事から70年を経過して老朽化が目立ち、教育や研究の

環境を整備する必要が生じました。そこで、2008年から中央部の保存と全体の外観維持を基本方針に、民間と協力して設計から運営までを行なうPFIという事業で改修されました。これは、本学が推進するサステイナブル事業の原点といえるものです。この改修により、先に触れた玄関や階段、大中の講義室が保存された一方、各研究室などは大きく更新されました。ところで、この改修で中央部にエレベーターが設置されましたが、当初は正面外部に設置される計画でした。しかし、外観の印象が大きく変わることや危惧した学内委員のひとりの教授が猛反対した結果、竣工当初の印象が保たれたといえます。なお、旧本館と計画段階の正面部の模型が総合博物館に展示されています。



装飾性と構造を兼ねた梁と柱

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

■ちよつきにボード作成及び展示
ちよつきにボード選手権は社会的活動の一環で、「日常生活の中で、「ちよつと気になるけど自分では調べるほどではないなあ」ということを調べてみましたボード選手権」の略称です。全国の学生委員会のメンバーによって、全国の大学生協での社会的活動推進につなげようとした取り組みです。学生委員会では胆振東部地震に合わせて当時様々な状況の北大生が何を思っていたのか聞きました。

環境活動

■環境活動
こちらも社会的活動の一環ですが、学生委員会では環境活動を続けており、まずは学生委員が環境に目を向けるきっかけとして北大のメインストリートでゴミ拾いを行いました。学生委員以外にも院生委員の方や総代の方に参加していただきました。

学生委員会公式HP

<http://hokudaiji.web.fc2.com/>

学生委員会公式Twitter

@HU_COOP_GLCS

学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp

院生委員会

院生総代会議を開催しました。

10月30日(火) 18:30~19:45
中央食堂2階にて院生総代会議を開催しました。当日は、院生委員14名を含む、院生さん21名と購買マネージャー、中央購買店長が参加し、セイコーマートと生協の比較や、生協への意見・要望等を交流しました。セイコーマートが出来たことで、中央購買、食堂、コッパンは苦戦を強いられていますが、まだまだ生協にできること、やるべきことが見え、非常に有意義な会になりました。



「ほんでないかい2018」作成中

書評誌「ほんでないかい2018」を現在作成中です。今回の特別インタビューは、イグノーベル賞を受賞した、中垣先生にお願いしました。大変おもしろく、興味深い内容になっています。また、書評も学部生まで対象にしたことで、昨年比去年に大幅に増えました。ボリューム満載の内容になりますので、「二期期待ください」。

留学生委員会

北大主催「秋学期新入留学生オリエンテーション」10月2日(火)

開催内容の変更で従来のプレゼン時間がなくなりました。本会場受付にパンフレットを置いていただき、別会場にポスターを貼って北大生協の紹介・生協とTUOカード加入、a u s m aホ契約についてご案内しました。

「今秋新入留学生ウェルカムパーティー」10月5日(金)開催

(詳細は、本誌2ページに掲載)

「中古自転車譲渡事前説明と手続き会」10月15日(月)開催

参加者は受付時間前から集まりましたが事前集約の85人は来ませんでした。防犯登録手続き・乗り方マナー・施錠の必要性・自転車事故事例・学生賠償責任保険の紹介の後、譲渡会当日の詳細をお伝えしました。

「中古自転車無料譲渡会」10月21日(日)開催

学会や学業集中時期が重なり委員12人中5人だけの運営予定となり中国語が話せる人がいない状態。毎回様々な質問対応に中国人委員も大変でした。たまたま来札中の卒業生OGの協力を得てなんとかスムーズに運営できました。数年ぶりの好天に、委員も参加者も震えることなく作業が進み、60人が選んだ自転車に乗って嬉しそうに帰って行きました。

教職員委員会

■教職員総代会議・学内7ヶ所
8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から色々なご意見をうかがっています。
10月は16日、18日に、11月は13日、15日に開催しました。

■教職員委員会・毎月1回、18時~19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。
10月は18日に、11月は15日開催しました。

■「きぼうの虹」この冊子です。教職員委員会が編集し偶数月に発行しています。

今号の「Opinion」は保健科学研究院の平野先生に災害時の心構えについて執筆いただきました。台風・震災など、立て続けに天災に見舞われましたが、自身の被害を最小限に抑えるため、日常的な「備え」が必用ですね。

【編集後記】

きぼうの虹379号をお届けします。
やつと雪が降りました(11月20日)。128年ぶり、観測史上最も遅い初雪とのこと。積もれば積もったでやっかいな雪ですが、やはり北海道の冬は雪がないと・・・。「根雪」になるにはもう少しかかるかとは思いますが、雪かき待ち遠しいのは私だけでしょうか。